

熱帯の有用材 (7)

緒方 健

ブラキステギア (*Brachystegia*)

学名: *Brachystegia* spp. (マメ科)

Brachystegia 属はマメ科のカワラケツメイ亜科 (Caesalpinioideae) に属する樹木で、熱帯アフリカに広く分布する。とくに中央アフリカから東アフリカにかけての乾燥したサバナ林地帯に種類が多い。しかし分類がむずかしい属で、同種内でも形態的変異が大きく、かつまだ研究が不十分なため、種の数も学者によって見方が異なり 30 種程度から 70 種以上に区別される場合がある。

この属の一般的特徴をあげると、多くは数 m から 30 m ほどの小～中高木で、乾燥地帯の一部の種では地際部だけが木化したほとんど草状に近いものもある。しかし、熱帯西アフリカの降雨林に生育する数種は高木となり、樹高 40～50 m に達する。葉は偶数羽状複葉で、小葉は 2 対から 70 対のものまでである。托葉をもち、これの形態はきわめて多様で種の分類に重要である。花序は総状～円錐花序で、頂生または腋生する。花は小花で、ふつう淡緑黄色、花被片は 0～10、雄ずいは多くは 10、ときに 9～12 (～18)。果実は扁平な木質のさやで、中に 1～8 個の種子がある。いくつかの種間雑種が観察されており、これも種の分類をむずかしくしている理由のひとつである。この属の樹木は乾燥した地域でしばしば優占種として存在し、水土保全に役立つ、また現地住民の重要な燃料源となっている。

木材の利用上からみてこの属の樹種はほぼ次の 4 グループに分けられる。

I. オクウェン (Okwen, ナイジェリア名)

1. *B. eurycoma* Harms ナイジェリアの降雨林に分布し、低湿地でかたまって生育することがある。別名 Akume。
2. *B. kennedyi* Keay ナイジェリアの降雨林に分布。
3. *B. leonensis* Hutch. et *B. Davy* シエラレオネ、リベリア、コートディヴォアールの降雨林に分布。別名 Tebacco (リベリア)、Meblo (コートディヴォアール)。
4. *B. nigerica* Hoyle et A. P. D. Jones ナイジェリア南部の降雨林に分布。別名 Adie, Achi, Apo。

市場でオクウェンと呼ばれているのは大体この 4 樹種の木材で、ときには上記の別名で扱われることもある。いずれも熱帯西アフリカの降雨林に分布する常緑の大高木で、樹高 40～50 m、直径 1～2 m、枝下 20～30 m に達し、通直、円筒状の樹幹をもつ。辺材は概して幅広く、10～15 cm あり、淡黄白色。心材は明褐色～褐色～濃赤

褐色 (*B. eurycoma* が最も明色) で、辺材との境は明瞭。しばしば顕著な暗色の縞をもち (とくに *B. kennedyi*, *B. leonensis*)、明暗の装飾的な模様を作る。肌目はやや粗、木理は波状または交錯する。気乾比重 0.50~0.65 (*B. eurycoma*, *B. kennedyi*)、0.55~0.75 (*B. leonensis*, *B. nigerica*)。

乾燥には時間がかかり、狂い、割れを生じることがあるが、それほど著しくなく、椽木の間隔を狭くすることにより防げる。工作性はやや難で、鋸、工具の刃が鈍りやすく、また釘打ちの際に割れやすい。耐久性はあまり高くなく、とくに辺材は菌、昆虫に犯されやすい。心材への薬剤注入は難。

用途は耐久性を要しない一般建築用、車両、フローリング、家具など。明暗の縞の明瞭なものにはゼブラノ (*Zebrano: Microberlinia* spp.) の代用として装飾用材に、また逆に色の変化の少ないものはチーク、マホガニーの代わりとして用いられる。

II. ナガ (Naga, カメルーン名)

5. *B. cynometroides* Harms カメルーンの降雨林に分布。常緑高木で、直径 80~120~150 cm になるが、樹幹はやや曲がっていることが多い。材質、用途は *B. leonensis* などとほぼ同じで Okwen として扱われることもある。

III. ボマンガ (Bomanga, コンゴ名)

6. *B. laurentii* (De Wild.) Louis ex Hoyle カメルーン、ガボン、コンゴの降雨林に分布。別名 M'pai (コンゴ)、Leke, Leki (カメルーン)、Andoung (ガボン)。

7. *B. mildbraedii* Harms カメルーン、ガボンの降雨林に分布。別名 Ekop-evène または Evène (カメルーン)、Andoung (ガボン)。

樹高 25~35 m、直径 60~90 cm の樹木で 10~20 m の枝下高がある。辺材は幅広く約 15 cm、淡黄白色、心材は淡褐色~褐色で、辺心材の境はやや不明瞭。気乾比重 (0.45~) 0.55~0.75。加工性は一般にオクウェンよりはやや良く、構造用、車両、フローリング、家具のほか壁面装飾用、細工物、彫刻用等に用いられる。

IV. ムヨンボ (Mjombo, タンザニア名)

8. *B. boehmii* Taub.

9. *B. spiciformis* Benth. 別名 Mrihi, Soror (ケニア)、Mtundu, Mtondo, Mundu (タンザニア)、Muputu (ザンビア)、Messassa (モザンビーク)、Miombo (ローデシア)。

この2樹種は熱帯西アフリカから東アフリカにわたって広く分布するが、とくにタンザニアからローデシアにかけての東アフリカのサヴァナ林に多く、しばしば優占種として存在する。樹高 15~25 m、直径 60 cm 程度のものがふつうだが、大きいものでは樹高 30~40 m、直径 1.3 m になる。辺材は幅 9~12 cm、淡黄白色、心材は褐色~赤褐色で暗色の縞をもつことがある。気乾比重 0.75~0.82。乾燥はおそく、狂い、割れが起きやすい。用途は一部輸出されるほか現地的一般建築、燃料用などが主で、樹皮のタンニンは皮なめし用とされる。